

「恐竜か鳥か」それが問題だ



パタゴニクスの全身骨格。きっと速く走れたでしょうね

1990年代、恐竜学者たちは、「鳥」は恐竜から進化したのかどうかで熱く論争しました。

「恐竜か鳥か、どっち？」と迷う化石がいくつも見つかったこともその背景にありました。この写真の標本もそんな悩ましい化石の一つで、最初にこれを研究した人の結論は「鳥」。骨の特徴から、もともと空を飛んでいた鳥類の一種が、飛ぶのをやめて地上生活に適応し、すばしこく地上を走り回るように進化したと考えたのです。南米のパタゴニアで発見され、手の先が一本指で大きな爪があることから「パタゴニクス（パタゴニアの爪）」と命名しました。しかしその後も議論が続



手は短く、がっしりした一本指（○で囲んだ中）。この指は何に使ったのでしょうか？

き、いまは「非鳥類型恐竜」つまり鳥ではないというところになっています。

21世紀に入り、「鳥は分類上は恐竜の仲間」ということが世間の常識になりました。恐竜は絶滅したのではなく、「鳥類」という恐竜のグループは生き残っているというわけです。

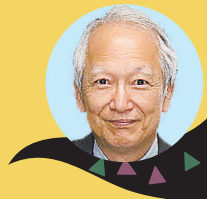
それに合わせて、かつて「恐竜」と呼ばれていた仲間を「非鳥類型恐竜」と呼んで「鳥類」と区別しています。

パタゴニクスは鳥から非鳥類型恐竜へと見直しがなされた恐竜ということになります。

受験生への配慮で多くの大学の新型コロナウイルス対策が厳しくなっています。うちの恐竜学博物館の開館日などはホームページで確認してください。このパタゴニクスをはじめ、岡山理科大所蔵のおもしろい小型恐竜たちが岡山駅に近い「アスエコ」で展示されます。ぜひそちらでご覧になってください。

南米発見のパタゴニクス

岡山理科大教授 石垣忍



メモ

パタゴニクスの骨格は、ほかの非鳥類型恐竜や、ダチョウの骨格（いずれも岡山理科大所蔵）と一緒に環境学習センター「アスエコ」（岡山市北区下石井2-2-10 ☎086-224-7272）で12月23日から来年3月31日まで開催される「Re：大恐竜展 #鳥は恐竜です！」で展示されます。開館日時などはアスエコで検索。

恐竜調査隊が行く